

浦添大公園南エントランス管理事務所設計競技

ウラオソイ “門”

土地と風土に馴染む、シンボルになる空間の提案

本提案では、浦添の文化と歴史とふれあうこの場所にふさわしい、空間を実現したいと考えています。計画敷地の背後には浦添大公演の緑地が広がっています。したがって本提案では景観への配慮と土地になじむ事はもちろんの事、メインエントランスとしての役割として、別の場所へと誘う、景観の仕掛けを施しています。それは、城門のような意識の切り替えができる空間の提案です。



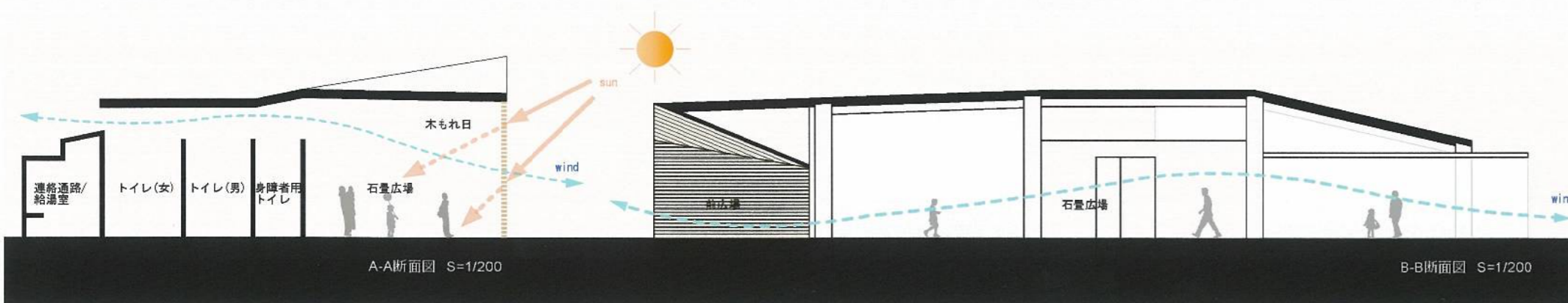
エントランス(門)



石畳広場から公園方向をみる



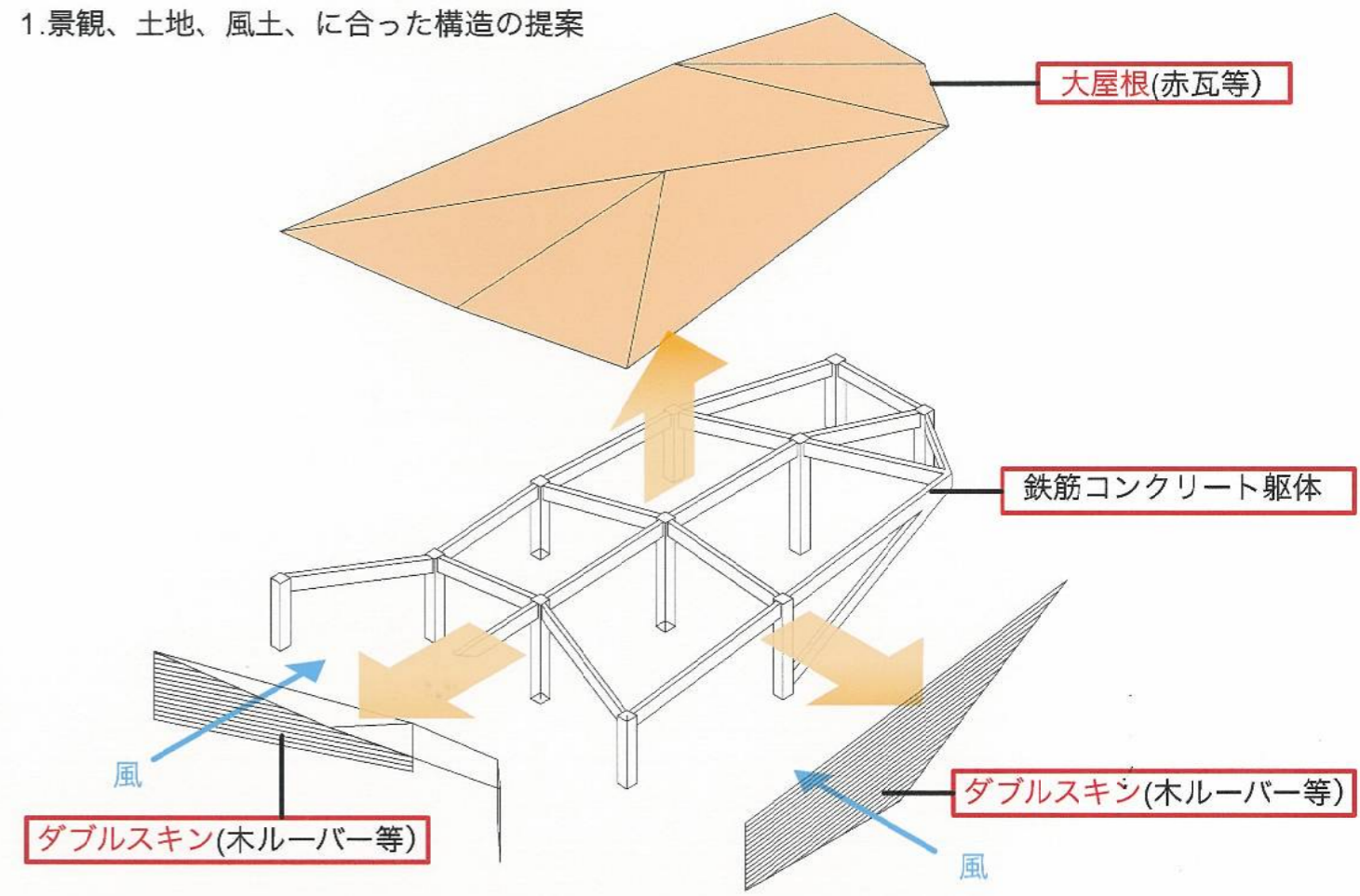
大屋根で覆われた石畳広場





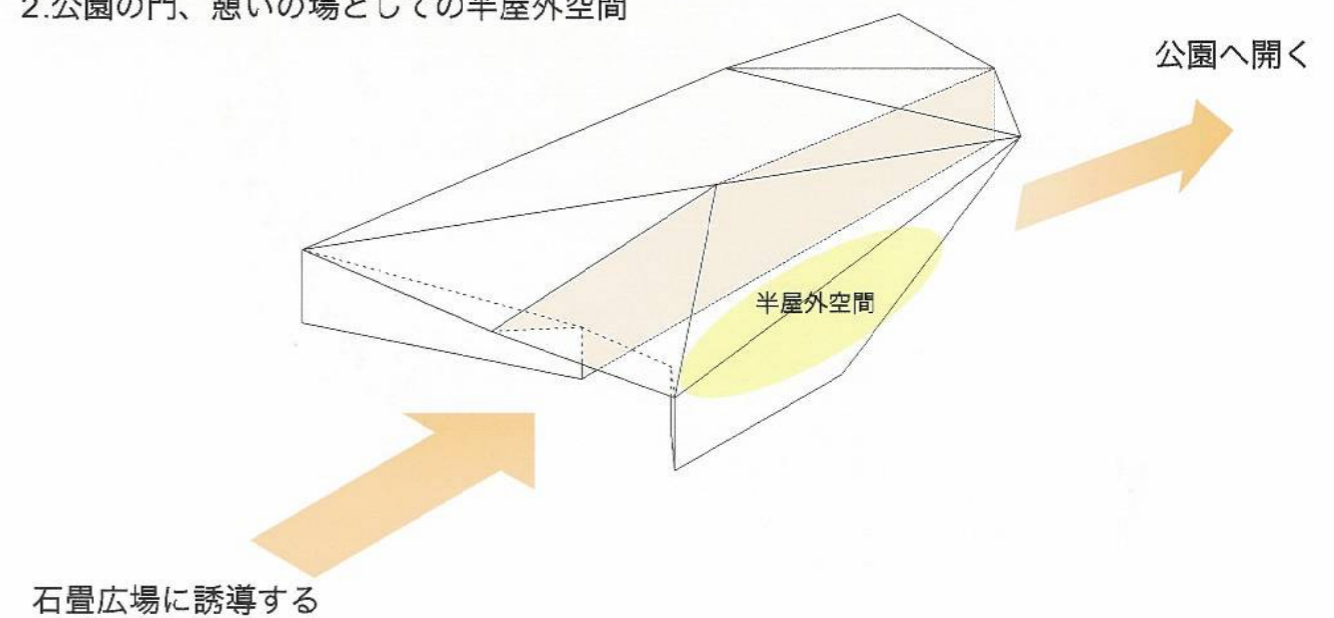
一階平面図 S=200

1. 景観、土地、風土、に合った構造の提案



木ルーバーのダブルスキン、大屋根により日射量を調整しながら、風通しをよくし、夏の冷房による環境負荷を減らします。
 躯体は沖縄で主流のRC造を採用し、低コストで安全な構造体を目指します。
 大屋根、ダブルスキンの仕上げは共に、最終的にはコストバランス、景観への配慮を協議して決定します。

2. 公園の門、憩いの場としての半屋外空間



門型にする事で、公園のシンボルになると同時に、そこを通過する事で意識の切り替えを図ります。
 テーパーを設け、入口を低く抑える事で、駐車場からの人と、風、光を一旦石畳広場に集め、そこから、一気に公園側へと開いていきます。
 又、勾配屋根にする事で、公園の稜線と緩やかにつなげ、景観を馴染ませます。
 正面の仕上げを木仕上げとする事で、公園の森林と違和感なくとけ込むよう配慮しました。